

委員意見を踏まえた、被害想定と対策の主な論点

令和2年10月1日
日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ
(第3回)

内閣府（防災担当）

委員意見を踏まえた、被害想定と対策の主な論点

南海トラフ地震での検討をベースとして、特に積雪寒冷地特有の事象や北海道・東北等の沿岸地の特性等の観点を集中的に検討

特徴と課題

【特徴】

- ・広域にわたり巨大な津波が発生
- ・冬季に発生した場合、積雪寒冷地特有の事象が発生

【予想される被害（課題）】

- 積雪・凍結により避難行動が困難な状況（暴風雪の状況の可能性も）
- 寒冷状況下の避難は低体温や凍死等のリスクなど避難生活環境へ深刻な影響
- 平野部などでは、移動距離が大きく、要支援者等の避難が困難
- 強い揺れによる建物被害、火災被害の懸念。特に積雪荷重による被害の拡大
- ライフライン被害と冬季の復旧活動の支障により、住民生活に致命的な影響
- インフラ被害と冬季の応急活動等の支障により救援・救助活動に深刻な影響
- 食料基地としての機能の喪失

被害想定及び対策を検討する際の主な論点

＜検討の考え方＞

- ・最大クラスの津波に対しては住民避難を軸とした総合的な津波対策が必要
- ・積雪寒冷特有の事象を踏まえた対策が必要

＜被害想定手法の主な論点＞

- ・積雪寒冷下における避難等の設定
- ・避難時の低体温・凍死の被害の定量化の検討
- ・積雪寒冷地特有の住宅構造と積雪荷重
- ・津波漂流物の考慮（流氷等）
- ・火災の地域性係数の考慮 など

＜具体の対策にあたっての知見＞

- ・過去の災害事例
- ・積雪寒冷災害の研究や対策事例
- ・現状の対策状況

被害想定

【対策の主な論点】

- 積雪寒冷地などを考慮した避難対策
- 寒冷状況下においても避難後に生命の危険（低体温・凍死）のリスクを低減するための対策
- 各分野において寒冷地特性等も踏まえた事前防災対策（耐震化、火災対策、ライフライン、インフラ等）
- 寒冷地特性等も踏まえたインフラ被害時等における災害応急体制の確立
- 寒冷地特性等も踏まえた迅速な復旧・復興に向けた事前の備え
- 食料供給問題等、被災地域内外への影響への備え（南海トラフの対策をベースに寒冷地・地域性等も考慮してとりまとめ）